

記事
1人口減少をチャンスととらえ、
日本が新文明を創造しよう

〔語り手〕

丹保 憲仁

名誉会員 北海道大学名誉教授 土木学会第89代会長

〔聞き手〕

神田 佑亮

編集委員

大内 雅博

学会誌編集幹事長

◆ 今の人口を維持することは
もはやできない

——これからの社会や土木工学にとって、人口減少という現象を、どのように位置づけていますか。

丹保——日本では、戦国時代が終わり、徳川の鎖国が1600年代に始まりましたが、江戸時代の日本の人口は約2000万人から約3000万人に増加し、飽和しました。江戸時代の日本は、わが国が閉じた系で養うことのできる人口を200年以上にわたって示したスーパード大実験でもあったのです。それは、北海道を除く本州、四国、九州の三つの島で、太陽エネルギーだけを使い、グリーンに生き、米ベースでの自足文明なら、3000万人しか住めないということです。

明治以降、北海道が加わり、技術力は上がり



丹保憲仁(たんぼ・のりひと)さんのプロフィール

1933年北海道生まれ。工学博士。1957年北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了。北海道立総合研究機構理事長。第89代土木学会会長。北海道大学総長、放送大学長などの要職を歴任。専門は環境工学、著書に『人口減少下の社会資本整備—拡大から縮小への処方箋』(2002年、土木学会)など。